

## 職員による自己評価

## A環境面

- ・限りあるスペースを有効に活用している。

## B児童への支援内容

- ・児童一人一人の支援内容は共有出来ているが支援後の振り返りや気づいた点は非常勤の職員に関してはできない日もある。

## C関係機関との連携

- ・自立支援協議会・放デイ連絡会への参加並びに社協・こども支援課との連携している。児童発達支援センター・保育所・幼稚園連携は少ない。

## D保護者への説明責任・信頼関係

- ・連絡帳でのやりとり、面談や日頃の送迎時に情報はしっかりとお伝えしている。
- ・保護者会は、コロナ禍の為、開催は難しい状況であった。

## E非常対応

- ・避難訓練の実施。
- ・スタッフ・子供たちの布マスクから不織布マスクへ徹底はでき、コロナ感染対策には十分対応していたがこどもへの感染並びに家庭内感染の広がりには苦慮した。

## 保護者による評価

## A環境面

- ・活動スペースは十分確保されている。配置数や専門性は適切である。バリアフリー化への配慮はどちらともいえない回答があった。

## B児童への支援内容

- ・子どもが集中出来る環境と、友達と関われる場を設けてプログラムに参加しやすい様にしてくださり少しずつ皆と一緒に居られているように思います。

- ・コロナ禍で難しくなっているように思います。特に希望していません。

- ・保護者会などあれば憂い。

- ・室内での活動・外出プログラムなど様々な計画をして下さりありがとうございます。

## C事業所からの情報発信

- ・ニュースレター・ブログ、送迎時、面談等で情報を受け取っている。

## D非常対応

- ・避難訓練の実施、非常時のマニュアル一覧表の配布。

## 事業所内での分析

## 【共通点】

- ・プログラムが固定化されないように工夫されている。
- ・子供の状況に合わせた個別活動と集団活動を組み合わせた放課後等デイサービス計画を作成している。
- ・環境面での一致。
- ・保護者会活動の見解の一致。
- ・障がいのない児童と交流は持っていない。

## 【相違点】

- ・最低限のバリアフリー化は出来ている。

分析・検討してみても…

### 事業所の強み

- ・常勤・非常勤の職員の長期による勤務により、児童の特性を共有理解し継続的支援が出来る。
- ・距離を保ちながら工夫し静と動を組み入れた活動が出来ている。
- ・リトミック・ダンスの先生を招いての療育の継続。
- ・卒業後の居場所をフォローしている。  
今年度も2人の卒業生を社会に送り出した。
- ・夏休みに近隣の小学校の先生方の見学実施。
- ・地域の広場の利用

### 事業所の改善点

- ・第三者による評価の実施しそれを糧に改善につなげる。
- ・卒業生の就労先との連携。
- ・卒業後の支援の充実、特例子会社企業と連携を推進

### 事業所の改善への取り組み

- ・非常勤スタッフの支援後の一日の振り返りや研修会への参加の時間確保。
- ・関係機関との連携
- ・保護者会等の開催（お茶会）（就労意見交換相談会等）

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

・2022年度はコロナ禍のなか、地域の広場を活用することが出来ました。ようやくコロナも終息に向かいマスク着用義務もなくなりましたが、こども達にはマスク生活が定着してしまったようです。  
児童も入れかわりもあり（卒業・新入学）雰囲気もかわるなか、個人活動と集団活動を組み合わせた支援や中高生・小学生に別れた活動を考えて過ごせた一年でした。

2022年度利用

事業所名 児童デイサービス・アニマート菊名

担当者 管理者 野澤 明